

絆を深め、共に育つ学校

桜の花が満開となって、草花もきれいに咲く季節となりました。

仲間への心づかい、思いやりを大切に！

平成31年度の草野中学校は、1年生72名、2年生81名、3年生74名の計227名でスタートしました。学校スローガンは、『絆を深め、共に育つ学校』です。校舎の3階南側ベランダに掲げられています。「生徒同士が心のつながりを深め、良いところを認め合い、励まし合い、高め合う学校生活の中で、互いに成長する学校」を目指していきます。生徒会の皆さんを中心として、全校生で取り組んでいきます。仲間との心のつながりである「絆」を深めていくために、やさしい「心づかい」や「思いやり」の美しい行為が溢れる学校にしていきたいと思ひます。

《 放送朝会(4月15日)の内容 【行為の意味】から 》

本校のある学年通信に、以前こんな記事があったので紹介します。

タイトルは、「お互い助け合えるクラスに」です。

『先週のある日の出来事です。あるクラスで、給食の準備中に、あやまっておかずの汁を床にこぼしてしまいました。すると、すぐそばにいた何人がサッと駆け寄り、黙々とこぼれた汁を拭き始めました。7、8人はいたでしょうか。担任の先生も一緒になって雑巾やティッシュで拭いているその姿が、とても印象的で好感が持てました。「〇〇さん、拭いてくれる？」とお願いしなくても、自然に助け合える、これがクラスの一番大切なところだなと思いました。』

心は行為に表れ、行為は心を表す内容だと思います。日常の学校生活の中に見られるこの学級の出来事は、「こころは見えないけれどこころづかいは見える。思ひは見えないけれど思ひやりは見える。」につながる行為だと感じます。この言葉は、中学生に向け詩を書き続けた宮澤章二さんの詩「行為の意味」の一部で、東日本大震災後に、テレビのコマーシャルでくり返し流れていました。電車におなかの大きなお母さんが乗ってきて、生徒が席を譲る場面、長い階段を登っていくおばあちゃんの手を引いて一緒に階段を上っていく生徒の場面などもありました。

詩「行為の意味」の全文を読みます。(…)

仲間との絆、あたたかい心のある学校生活のためにも、「いじめ」のように仲間を苦しめるみにくい行為は、やってはいけないし絶対に許しません。やさしい「心づかい」や「思ひやり」など美しい行為があふれる学校にみんなですていいきましょう。

安全無事故で行ってきます！

修学旅行・遠足

3年生は4月22日(月)～24日(水)に、大阪・京都方面の修学旅行へ、4月24日(水)には春の遠足(1年生は茨城空港・大洗水族館、2年生は会津若松での班別研修)へ行ってきます。楽しい思い出をたくさん作ってほしいと思ひます。

4月26日(金)は、授業参観・PTA総会です。よろしくお願ひいたします。

行為の意味

宮澤章二

あなたの「こころ」はどんな形ですか
ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに「こころ」はだれにも見えない
けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思ひ」は見えない
けれど「思ひやり」はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為となり
やさしい思ひが やさしい行為になるとき
「心」も「思ひ」も 初めて美しく生きる
それは 人が人として生きることだ